

2017年5月30日

住友不動産株式会社御中

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学工学部建築学科建築史研究室気付
建築史学会
会長 藤井 恵介

旧渡辺甚吉邸の保存活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、貴社におかれまして、東京都港区白金台4丁目19-10に位置する旧渡辺甚吉邸(前白金甚夢迎賓館)を新しい建築計画に伴い撤去する方針と伝え聞いております。

本建築は銀行業を営む岐阜・渡辺家の14代となる渡辺甚吉氏の私邸として、1934(昭和9)年に建設されました。同郷出身の建築家・遠藤健三を伴い欧米見聞を行なった後に、チューダー様式に基づき遠藤が設計し、照明器具などの細部装飾を早稲田大学教授の今和次郎に依頼し、かつ全体的な計画を明治後期より洋風住宅の啓蒙とその普及に尽力していたあめりか屋の技師長・山本拙郎が担当しました。その後旧スリランカ大使館、貸し結婚式場として使われ続けられ、現在も当初の姿をよく留めています。また今和次郎は、流行研究、服飾研究、風俗研究などをはじめとした“考現学”の創始者であり、同作品は数少ない彼の高品質の装飾を確認できる最重要作品です。

日本では数少ない本格的なチューダー様式であり、細部装飾に極めて高度な技法が用いられていること、基本計画から細部計画に至るまで複数の関係者によって当時の日本の住宅建築の最高水準の経験、知見が投入されたこと、大切に使われ続け当初からの姿が保たれていることなど、同建物は日本近代の住宅建築の歴史を語る上で欠かすことのできない珠玉の作品です。また関連文献や調度品が残され、さらには多くの紹介書がつけられた、文化価値の豊富さも特筆すべき特徴です。

貴社におかれましては、この建物の持つ高い文化的意義と歴史的価値について改めてご理解いただき、かけがえのない同建築の歴史的価値を保つための方途を積極的にご検討の上、推進されますよう、お願い申し上げます。敬具

基本情報

旧渡辺甚吉邸(旧スリランカ領事館、前白金甚夢迎賓館)、竣工:1934年(昭和9年)、所在地:東京都港区白金台4-19-10、設計:遠藤健三(装飾:今和次郎)、施工:エンド建築工務所、構造:木造2階建て。地上二階、地下一階

主なメディア紹介歴

『建築探偵学入門』1976 藤森照信 / 『日本近代建築総覧』1980 日本建築学会 / 『建築探偵の冒険<東京編>』1986 筑摩書房 / 『今和次郎 採集講義 展』主催パナソニック 汐留ミュージアム 読売新聞社、美術館連絡協議会2012 開催